

「式内 荏名神社」

岐阜県高山市江名子町1290

創建の由緒は不詳である。延喜式神名帳に「飛驒国大野郡 荏名神社」と記され、小社に列しているが、後に衰廃し、所在は不明となっていた。

文化十五年（1818年）、高山の国学者田中大秀が、江名子村の「稲置（いなき）の森」にある祠堂を荏名神社と同定し、これを再興。本殿の傍らに隠棲し荏野翁（えなのおきな）と称し、国学の研究と後進の育成に専念した。本殿および神門は大秀翁が自ら設計したものである。同年第18代飛驒郡代芝与市右衛門は社号碑を建設した。参道の江名子川に架かる神橋は「御幣橋」と称し、大秀翁の設計によるもので近代設計になつたものとして知られている。「荏野文庫」は翁の研究成果を集大成したもので、大いなる文化遺産として市指定文化財となっている。敷地開拓中に「三個連続環鈴」が発掘された。大秀翁はこれを荏名神社の紋章とした。

祭神

高皇産霊神（たかみむすびのかみ）と荏名大神

中世までは「稲置森子安大明神」と称し、安産の神とされていた。